

令和4年11月28日発行

愛知県立農業大学校



だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2

Tel : 0564-51-1601 Fax : 0564-51-4831

E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp

ホームページ : <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



CONTENTS

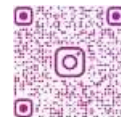
- 1 専攻紹介(施設野菜専攻)
- 2 「令和4年度 意見発表会」の開催
- 3 「ようこそ先輩」の開催
- 4 各専攻トピックス
- 5 トピックス
農業総合試験場公開デーに出展
収穫感謝祭の開催
岡崎市農林業祭に出展
4Hクラブ員と意見交換
一般推薦入学試験の実施
第2回進路セミナーの開催
生産高度化研修の開催等
- 6 お知らせ
農大祭2022の開催

愛知県立農業大学校
公式HP



SNS

Instagram



Twitter



専攻紹介

施設野菜専攻

施設野菜専攻は、トマト、ミニトマトを中心にナス、キュウリ、温室メロンなどの品目を栽培しています。施設園芸の未来を担う学生26人（2年生12人、1年生14人）がメンバーです。

ハウス棟数は、栽培ハウス10棟、育苗ハウス1棟の合計11棟で、面積は約50aです。栽培は冬春作が中心で、それぞれのハウスを担当する1、2年生が夏場の苗作りから定植などの、栽培管理、収穫、出荷、販売まで責任を持って行います。

2020年には統合環境制御装置を導入したICT温室が新たに建てられました。既存ハウスにも炭酸ガス発生機やミスト装置、環境モニタリング装置「あぐりログ」など、現場で普及が進む環境制御技術の導入も行われています。

実習の風景



接木



誘引



定植



液肥作り



収量調査



出荷調整

ほ場管理以外にも。。。



収穫作業



校外学習



加工演習



水曜直売

トマト・ミニトマト

大玉トマトは統合環境制御を導入した ICT 温室と土耕栽培、ミニトマトは隔離培地（ココバック、袋培地）、水耕栽培を行なっています。全てのハウスが8～9月に定植し、翌年7月まで収穫する促成長期栽培です。育苗から全て自分達で行い、長期的な管理を学ぶことが特徴です。

大玉トマト



ミニトマト



ナス、キュウリ、メロン

ナスは促成長期栽培、キュウリ、メロンは促成短期栽培です。どの品目も土耕栽培が主体ですが、最近は袋培地などの養液栽培にも挑戦しています。ウリ科野菜の接木、ナスの整枝、メロンの交配など特徴的な管理作業を学ぶことが特徴です。

キュウリ



ナス



メロン



特 集

令和四年度意見発表会



わたしたちの主張！

令和4年度意見発表会



令和4年度意見発表会を、11月15日（火）午後1時から中央教育棟大講義室において開催しました。各専攻から1名ずつ選ばれた1年生8名が、全学生及び職員の前で、農大における実践学習、我が家の農業経営や生活、地域の農村環境、派遣実習を機会に考えたことなどについて意見を発表しました。いずれの発表者も、発表内容はもちろんのこと、発表時間や発表態度等においても専攻職員から指導を受けて、練習を重ねていました。当日、緊張からその成果を十分に発揮しきれなかった発表者もいましたが、農業に対する思いや後継者として解決したい課題、今後の農業のあるべき姿、将来設計等を熱意を持って語り、印象深い発表内容となりました。



校長を委員長とした4名の審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞は「農業を通じて人の思いを未来へつなぐ」を発表した作物専攻の田中惣惇君、優秀賞は「見えてきた！農業で目指す社会貢献」を発表した施設野菜専攻の山田鳳斗君と「曲がった大根との出会いから私が目指す農業」を発表した露地野菜専攻の浅井李咲さんがそれぞれ獲得し、校長から賞状ならびに副賞（後援会支援）を授与されました。

最優秀賞の田中君は、兵庫県主催の「東海・近畿ブロック農業大学校意見発表会」に本校代表として参加しますが、さらにその先の全国大会（2月7日開催予定）への出場も目指します。

農業との出会いと家族の支え

祖父祖母はキャベツ農家だったが、祖父が体を壊し農業を続けることができなくなった。それに伴い農業に触れる機会も減っていったが、自分の夢だった農業を仕事にしたいという思いは日に日に強くなり、農業大学校への進学を決めた。母と祖母が「卒業した後に農業を始めやすいように」という思いから農業を再開してくれた。

農業大学校での挫折～作物専攻での学び

入試の時の第一希望は露地野菜専攻だったが、合格発表では作物専攻に名前があり、放心状態になってしまった。悩んでいるときに家族からの後押しもあり、作物専攻での入学を決めた。作物専攻では派遣実習で、リカバリーがうまい農家がプロであること、人とのつながりを大切にすることを学んだ。与えられた土地を精一杯管理することで、土地が集まり規模拡大に繋がったり、ファンが増えて直売所のお客さんになったりプラスの方向に作用する。



人とのつながりを大切にする農家になる

祖父が始め、祖母・母へと引き継がれてきたバトンを私がしっかりと未来へつなげていく。そして、農業大学校で得た友人とのつながり、派遣実習で学んだ地域の方々や消費者とのつながりを大切にする農家になる!!

最優秀賞

「農業を通じて人の思いを未来へつなぐ」



作物専攻1年
田中 惣惇

農業に興味を持ったきっかけ

私は農大に入る前に陸上自衛隊に所属していた。自衛隊の実務の中で社会貢献をしたいという自分の思いとギャップを感じるようになり、そんな中である YouTube チャンネルをきっかけに食と農業に関心を持つようになり、食を支える農業が自分の道であると感じて農大に入学した。

熊本での派遣実習での気づき

派遣実習は、全国屈指の農業県で親戚がいて馴染みのある熊本県で行った。興味を持った有機栽培農家に自分でアポイントを取り、派遣実習を行った。そこでは手間を惜しまない少量多品目栽培、直接販売など特徴的な経営スタイルを学んだ。一方で、派遣先の紹介で、有機栽培とは対照的な大規模農家でも教えていただき、マーケットインとプロダクトアウトという経営スタイルの違いを学んだ。また、大規模農家でも4Hクラブで精力的に活動し、自ら地域の中核となって勉強会を開催する姿を見て感銘を受けた。この経験を受けて、自分には安定した生産を軸に、地域の中心となり人を通じた社会貢献が可能な大規模な経営スタイルが合っていることに気が付いた。



将来について

美味しく安全な野菜を提供し、消費者や他の農家に寄り添い「若手農家として日本の農業を引っ張る」という夢ができた。この夢を信念に農業の道を突き進んでいきたい。

優秀賞

「見えてきた！農業で目指す社会貢献」



施設野菜専攻1年
山田 鳳斗

曲がった大根との出会い

高校での実習中に曲がった大根を収穫し、美味しく食べた。店では曲がった大根を売っていないことから、流通されない大根がどうなっているのか疑問に感じた。

食品ロス問題について

農業が抱える問題点を調べる学習の機会に、「曲がった大根」で感じた疑問の答えがあるかと思い、食品ロスについて調べた。その中で流通する前に捨てられてしまう「隠れ食品ロス」がある事を知りもったいないと感じた。農大での専攻実習でもまだ食べられそうな山のような野菜を「捨ててきて」と渡され再び曲がった大根のことを思い出した。

派遣実習で農家の方から学んだこと

派遣自習先の農家の方から「どうしても農作物の2割くらいは規格外ができてしまうが、農家はそれを減らすための栽培努力をしているんだ」と教えていただいた。品質規格が緩い加工用農産物の契約を結び出荷ロスを減らし、6次産業化にも取り組み、収穫物を無駄なく出荷するための努力・苦勞を知り、農家のパワーに驚いた。



将来の目標

大変なこともあるが、農業にはたくさんの魅力がある。自分は将来農業生産に携わる仕事に就き、食品ロスを含め農業が抱える様々な問題の解決に貢献したい。

優秀賞

「曲がった大根との出会いから私が目指す農業」



露地野菜専攻1年
浅井 李咲

「私にとっての農業 派遣実習での気づき」

実家の切り花農家を継ぎ、父や祖父のような農業者になることを目標にしていた。しかし家庭の事情で私も実家の農業を継ぐことができなくなった。

スイートピー農家での派遣実習で、農業を経営するためには気候や経済状況、植物の成長などあらゆることを考慮した農業計画をたてる必要があることを学んだ。ただ農作業することと農業を経営することには大きな違いがあることを実感し、父や祖父のことをさらに尊敬することとなった。

派遣実習を終えてやはり私は農業のために生きたいと思った。農業の可能性を広げていくのは次世代の農業者である。今の若者に農業の魅力を知ってもらうことがこれからの農業への第一歩だと私は思う。



切花専攻1年
小川 滉介

「日本農業の問題と自分の将来」

農家派遣実習中に、農家さんといろいろな話をした中でも一番印象に残っているのは、非農家が農業を新規に始めるのが難しい状況にあるという話でした。日本で農業を新規に始めるには、かなりコストがかかるとのことでした。だから、私は新規でも農業を始めやすいようにすべきと考えます。それには、自治体や国がしっかりサポートしてあげることが必要です。私は将来、未来の農業従事者を育成する農業実習助手を目指したいと思いました。きっかけは、農業改良普及員さんの話を聞いたことです。普及員さんと実習助手と職の違いはありますが、日本の農業従事者について、真面目に仕事に取り組める人になりたいです。



鉢物・緑花木専攻1年
安藤 仁

「農家になるための理想と現実」

「君は農家になれないよ」と高校時代に先生に言われた一言。そういうものだとなっていた。しかし高校3年で行った実習先は非農家からの新規参入者で、就農の楽しさも苦しさも教えてくれた。「農家って実家が農家じゃなくてもなれるんだ」衝撃的だった。このことを農業に興味を持つ多くの人に伝えたい。そして新規就農する人を支えたい。小さい頃から人の手助けが好きで自分が農家になることよりも、農家を志す人のサポートを仕事にしたいと思っている。事業継承による新規就農など、農家との強い信頼関係を持つ仲介者が必要となる。将来は地域に密着したJAの職員となり、新規参入者を支えていきたい。農大では、知識や技術とともに農家と地域に信頼される人間関係も学びたい。



果樹専攻1年
仮屋 岳

「私が目指す酪農経営」

農大の派遣実習で、大規模経営の素晴らしいところを学ぶ事が出来たが、現在の酪農を取り巻く厳しい環境と大規模経営の問題点にも触れることができた。派遣実習終了後、他の専攻生と互いの実習先で得た情報を交換する機会があり、ある牧場で4頭のジャージー牛だけで生計を立てているという話に、興味をかき立てられた。そこでは加工品を生産・販売する6次産業化に取り組んでいた。小規模の牧場が生き残るには6次産業化であり、6次産業化が進めば新たな酪農の形が生まれ、そして他の産業にない魅力が生まれ、酪農を志す人が増えて活力が蘇ると考えた。

派遣実習は、自分のなすべき酪農家の姿について新たに考える良い機会となった。小規模ではあるが6次産業化する事で安定した経営を目指したい。その上で酪農の魅力を発信し、酪農をやってみたいと思う人たちに新たな魅力を発信していけるようにしたい。



酪農専攻1年
大森 優人

「海外で農業を教え、学ぶこと」

幼い頃に参加したネパールでの「ヤギを贈るボランティア」をきっかけに、育て方を教える人、農業を教える人の重要性を認識し、いつか青年海外協力隊としてまたネパールへ戻りたいと考えた。

その後、農業高校へ入学し、高校では実習助手という職業に興味を持った。さらに農業を勉強するために農業大学校へと進学した。農大での派遣実習において多様な畜産動物を学ぶとともに、海外農業の話も聞き、改めて夢であった青年海外協力隊に挑戦したいと思うようになった。

現在の目標は、農大卒業後に実習助手として人に教えるということ学びながら勉強を続け、将来は青年海外協力隊として海外で農業を教え、学びに行きたいと考えている。



養豚・養鶏専攻1年
鈴木 響

審査講評

校長 鷹羽 靖夫

各専攻を代表した8名の意見を聴く、大変有意義な発表会となりました。

最優秀賞の田中さん（作物専攻）は、家族がつかないでできた農業に対する思いを受け継ぎ、農業にかかわる人とのつながりを大切にしたい農家になる思いを熱く発表したことが評価されました。

優秀賞の山田さん（施設野菜専攻）は、農業で目指す社会貢献について、きっかけ、派遣実習での気づき、今何をすべきか整理して、実現に向けて頑張る決意を明確に述べてくれました。

同じく優秀賞の浅井さん（露地野菜専攻）は、「曲がった大根」との出会いから「隠れ食品ロス」を学び、派遣実習先でさらに農産物加工品の取り組みに触れて、農業の抱える様々な問題を解決したい思いを述べてくれました。

惜しくも、賞に入らなかった発表も、それぞれ自身の経験を通じて感じたこと、農業の置かれた状況や環境を踏まえた、個性豊かでの前向きな意見でした。

今後、学生諸君が自分の意見、考えを持って学校生活をより豊かにしてほしいと思います。

ようこそ先輩！

11月4日（金）、農大の学生が実践的な農業経営を学ぶため、各作目の第一線で活躍している先輩農業者8名を講師に招いて「農業の魅力や農業経営について」をテーマに、専攻別懇談会「ようこそ！先輩」を開催しました。

各専攻の卒業生となる先輩農業者からは、農業の魅力ややりがい、効率的で安定的な農業経営など貴重なお話をいただきました。

多くの学生が改めて農業の魅力を実感し、将来の就農に向けて大変有意義な懇談会となりました。

お越しいただいた先輩8名(学生時代の専攻)

渡会 卓也さん(鉢物・緑花木専攻)

山田 倫之さん(切花専攻)

関戸 裕貴さん(作物専攻)

金田 真也さん(果樹専攻)

早野 敦喜さん(露地野菜専攻)

稲吉 純希さん(施設野菜専攻)

彦坂 渉さん(酪農専攻)

真田 大幹さん(養豚・養鶏専攻)

果樹専攻

田原市でハウスミカンを栽培する金田真也氏に「自分の就農経験談やハウスミカン経営」について講演していただきました。冒頭から「死ぬほど忙しい時とやることがない時期がある。それがいい」という金田氏の経営哲学全開の発言から始まりました。

果樹栽培は農繁期と農閑期がはっきりしており、省力化や雇用確保、作型・作目の組合せを駆使し作業時間を平準化することを「儲かる」基本としてきました（事実今でもそうですが）。金田氏はその上で、完全に平準化してしまうよりむしろオンオフがあった経営が自分に合っている。むしろ農閑期の2か月程のために自分は農業に取り組んでいるとの旨の話を学生に話されました。

学生、特に2年生は、専攻で取り組む模擬経営で効率や費用対効果の考え方を身につけるにつれ、良くも悪くも削ぎ落としてきた大事な部分を思い出し、これから関わる仕事に対してのモチベーションを上げたようでした。



鉢物・緑花木専攻



切花専攻



作物専攻



露地野菜専攻



施設野菜専攻



酪農専攻



養鶏・養豚専攻



専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！



冬野菜の収穫すすむ！順調なすべりだし

寒くなり、冬野菜の収穫が始まりました。露地野菜ではキャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、ダイコン、ニンジンなどの冬野菜を栽培していて、日に日に収穫量が増えています。今年は10月の雨が少なく生育が遅れている作型もありますが、一昨年に購入したレインガンを使用して散水をしています。1年生は2年生に教わりながら収穫、出荷の方法を習得して、頼もしくなってきました。冬野菜の収穫は今後も春頃まで続きそうです。



スマホを用いた生育調査を始めました！

施設野菜専攻の学生は卒論作成に向けて、毎週1回、茎径や伸長度合いなどの生育調査を実施しています。昨年度より、紙による記帳からスマホアプリ「生育ナビ」を用いたスマートフォンのカメラ機能を用いた調査を試用し、今年度から本格運用を始めました。これにより調査時間の削減と学生同士、職員とのデータ共有が可能となります。これらの便利なツールを生かして来年度の卒論に向けて有益なデータがとれるよう調査を頑張っていきます。



校外学習でお米の品質分析を実施！

2年生の校外学習で農業総合試験場作物研究室を訪問し、お米の分析を行いました。試験場の職員に教えてもらいながら、近赤外分光分析計や穀粒判別機を使用し、お米の蛋白質含有量や整粒歩合といった品質を調査しました。

学生たちは普段扱うことのない精密機器や慣れない作業に苦戦していましたが、お米の分析手法について学ぶことができ充実した実習となりました。

得られた結果は、卒論のデータとして活用してきます。





校外学習で新技術を学ぶ



2年生が西尾市と田原市へ校外学習に行き、現役の農家さんの圃場を見学させていただきました。農大にはない設備や生育ムラのない立派な圃場など見どころが多く、色々なことを勉強させていただきました。

中でも学生の興味を引いたのは、西尾市のデルフィニウム農家さんにあった紫外線ランプでした。植物に紫外線を照射することにより、病害虫を防ぐ技術の試験中だそうです。普段の専攻実習でも病害虫は度々発生しており、防除にかかる労力が大きいことをよく知っているだけに、省力的な新技術に興味津々でした。実用化に期待がかかります。



校外学習で学びを深める

鉢物・緑花木専攻と切花専攻との校外学習を行いました。田原地域の鉢物（シクラメン）と切花（トルコギキョウ、輪ギク）生産者にお世話になり、各品目の栽培の技術や工夫についてお話して頂きました。学生たちは伺ったお話や圃場の中で気になる点、日頃の栽培における悩みなどを質問し学びを深めていました。また、伊良湖岬の新鮮で美味しい海の幸を頂き、美しい風景にも感動して、とても充実した顔で帰ってきた学生たちでした。



校外学習で鳥獣被害対策を学ぶ

11月8日、果樹専攻では、校外学習として岡崎市内のブドウ農家2戸と岡崎猟友会射撃練習場を訪問し、鳥獣被害対策について学びました。射撃練習場では、岡崎猟友会会長が講師となり、大型獣用箱わなの架設体験を行いました。蹴り糸に触れると扉が落ちる仕組みや、獣がわなにかかりやすくなるための仕掛け、設置の注意点等、熱心に指導してもらいました。自治体によって捕獲等のルールが異なるため、自身のほ場で対策を取る場合は、市に問い合わせよう注意の呼びかけがありました。果樹経営と鳥獣被害対策は切り離せない話題として、学生も熱心に話を聞いて質問をしており、有意義な研修となりました♪





酪農

牛の品評会に出品しました

11月13日に畜産総合センターにて愛知県ホルスタイン共進会が行われました。共進会とはいわゆる牛の美人コンテストで、この度農大からも育成牛の「マカロン」を出品しました。出品を決定してからは、当日までずっと見た目から歩き方まで、いかに美しく牛を魅せられるか研究してきました。

残念ながら結果はふるいませんでしたが、担当した澤村さん、鈴木さんお疲れ様でした。そしてやっぱりうちの子が1番カワイイよね！笑



養豚

官能評価試験を行いました！

学生のプロジェクト研究で、ハーブもしくはガーリックを肉豚に給与して、生産性及び肉質への影響について調査し、11月上旬に試験を終了しました。肉質の影響を評価するために、官能評価試験（食味試験）を行いました。官能評価の方法を、実践を通して学ぶことができました。



養鶏

秋ヒナの導入！

春ヒナに続いて秋ヒナを導入しました。春ヒナに比べ、秋ヒナは寒い時期に導入するため、寒さにはより一層気を付けなければなりません。ヒナの入る鶏舎は温度・湿度管理が大変ですが、管理後、鶏舎の外の空気は涼しく心地よくもあります。

春と比較してもう一つの大きな違いは1年生の成長です。春ヒナは2年生の見様見まねで大変でしたが、今では1年生だけで管理できるほど成長しています。逆に2年生はこれまでの管理から一度手を放し、卒論プロジェクトに取り掛かっています。普段から論文形式の文書を書かないため手こずってはいますが、自分たちが調べてきたものを形にできるよう頑張っています。



トピックス

農業総合試験場公開デーに出展しました

11月3日（木、祝日）、長久手市の県農業総合試験場で行われた公開デーに農大として出展しました。農大のブースでは専攻実習の様子のパネル展示や農大産の新鮮な農産物を販売しました。

毎週水曜日に開催している実習販売で慣れているつもりでしたが、長久手のお客さんの勢いがすごくトラック1杯に積んでいった農産物があっという間に売り切れてしまうほど盛況でした。



収穫に感謝！ ～ 収穫感謝祭開催 ～

11月4日（金）「ようこそ先輩」にてお招きした本校を卒業した先輩方を招待し、収穫感謝祭を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、たくさんのお肉とともに本校で獲れた新鮮な野菜や新米が用意されました。

今年もたくさんの農畜産物を収穫できたことの喜びと感謝をしつつ、美味しくいただきました。

新型コロナの影響により3年ぶりのバーベキューとなりましたが、感染対策を施しつつ、大いに盛り上がりました。



岡崎市農林業祭で農大産農畜産物を販売

11月5日（土）、岡崎市の乙川右岸河川敷で行われた第49回岡崎市農林業祭にブース出展しました。今年の農林業祭のテーマは「もっと岡崎産、きっと元気」で、多くの生産者や関係機関等が参加していました。農大のブースでは、日ごろの専攻実習の様子を紹介したパネル展示や、農大産の農畜産物を販売しました。

卵や野菜、観葉植物など農大の各専攻で生産された新鮮な農畜産物をお値打ちに販売するだけでなく、鉢植えの手入れの仕方や農産物の美味しい食べ方を説明するなど、市民との交流を深めることができました。



多くのお客さんで賑わう農大ブース

あいち青年農業者大会で4Hクラブ員と意見交換

11月11日（金）、あいち青年農業者大会が農大で行われ、意見発表の部に1年生、プロジェクト発表の部に2年生が参加しました。農大生のプロジェクトに比べて、より経営に直結した課題に取り組まれており、多くの学生が興味深く聞き入っていました。意見交換会では、農大生からの積極的な質問に対し、4Hクラブ員が真摯に答えてくれました。充実した質疑応答ができ、参加した学生、4Hクラブ員双方にとって有意義な会となりました。今後、就農を考えている学生にとっては、就農後の姿に思いをはせる良いきっかけになったのではないのでしょうか。



校長あいさつ



学生と4Hクラブ員の意見交換会

一般推薦入学試験を行いました

10月31日（月）に行われた令和5年度入学生一般推薦入学試験では、49名の応募がありました。11月11日（金）に合格発表を行い、9月29日（木）に実施した農業系高等学校後継者等特別推薦入学試験合格者を合わせて58名が推薦入学試験に合格しました。

専攻別では、露地野菜や果樹、作物の専攻を希望する応募者が多くいました。

今後、農業大学校の令和5年度入学生一般入学試験が、12月9日（金）に行われます。

一般入学試験は県外からの受験が可能となります。農業に熱い思いを持った受験生の応募を期待します。

第2回進路セミナーを開催

11月8日（火）、1年生全員を対象に第2回進路セミナーを開催しました。

今回は「就職活動の進め方」と題して、（株）インテルプレスの森千紘先生を講師にお迎えしました。森先生には昨年度来2年生の就職支援に御協力いただいておりますが、今回、早期に希望進路先から内定が得られるよう、就職活動への意識付けを図るため、1年生を対象とした講義をお願いしました。

講義は、就活の基本的な流れや考え方のお話のほか、自己PRやこれまでの経験の掘り起こしのワークを行うなど飽きさせない内容で、1年生からも好評でした。進路セミナーは、今後3回、12月、1月、2月に開催を予定しています。



生産高度化研修(茶業)を開催

10月26日（水）、愛知県茶業連合会及び県園芸農産課と共催で生産高度化研修（茶業）を開催しました。テーマは「茶の消費拡大について」で、生産者及び関係機関から85名の参加がありました。

近年、茶の消費が減少し、茶生産者は厳しい状況に置かれています。この研修会では、静岡県茶業会議所の伊藤専務理事から、令和3年と4年に静岡県で調査された若者の茶の嗜好傾向を聴きました。また、農業総合試験場東三河農業研究所の辻主任研究員から品評会で上位入賞するための留意点について情報提供がありました。参加者は熱心に聴き入り、講演の後には活発な質疑応答が行われました。



静岡県茶業会議所 伊藤専務理事の講演

GAP研修を開催

10月28日（金）、GAP研修を開催し、経営コンサルタント オフィスb-MAPの久田博司氏より「経営改善に向けたGAPの実践」と題し、講演をいただきました。

参加者は19名で、GAPの導入に向けてどうすればよいか悩んでいる方が多く、久田氏から農業経営におけるGAPの取り組み効果、実践するためのポイントについて分かりやすく説明を受けました。

受講後のアンケートでは、今回得た知識をGAPの導入に結び付けていきたいとの感想が多く寄せられました。



久田博司氏の講演

農産物利活用研修を開催

11月8日（火）、農産物利活用研修を開催しました。講師は創和マネジメント代表の梅村彰氏で、「農業のマーケティングと6次産業化」と題してご講演いただきました。

受講者は、愛知農業次世代リーダー塾の受講生を含む26名で、マーケティングのための分析手法、商品開発・販路開拓のための考え方等について説明を受けるとともに、演習を行ってマーケティングに対する理解を深めました。

講演後の受講者のアンケートでは、非常に分かりやすかった、今後の販売に役立てたいなど好評価であり、有意義な研修となりました。



梅村彰氏の講演

お知らせ

農大祭 2022

愛知県立農業大学校は、農畜産物販売などを通して地域の方との交流を図り、農業大学校を身近に感じ、愛知県の農業の魅力を発信することを目的に「農大祭2022」を開催します。

- 開催日時
12月3日（土）午前9時から午後1時まで（入場開始 午前8時30分）
- テーマ
やりたいことを全力で ～笑顔満天 農大祭～
- 主な内容
 - ① 農畜産物の直売、食品バザー
各専攻で育てた鉢物、切花、米、果樹、野菜、卵などの直売。おでん、五平餅、甘酒、パウンドケーキの販売など。
 - ② 農業大学校のPR
各専攻のパネル展示、農大キャンパスツアーを行い、農大を知るとともに魅力を発信。
 - ③ 各種団体・企業ブース
農業大学校に関係する団体、企業がブースを出展し、展示や即売。



写真：昨年度の農大祭

会場風景と鉢物・緑花木専攻の販売

